

『人文学研究所報』 総目次 (1号～50号)

No. 1 (1965. 3)

三木清と実存哲学との交渉……………	信太	正三
私の「比較文学」への道……………	島田	謹二
明治維新論の再検討のために……………	神川	正彦

No. 2 (1966. 3)

実存的思想家としての兼好……………	草薙	正夫
明治二十年代における思想的営み……………	神川	正彦
比較文学……………	太田	三郎
トマス・モアと“ユートピア”……………	飯田	耕作

No. 3 (1967. 3)

ヤスパースと仏教思想……………	草薙	正夫
禅と実存哲学……………	信太	正三
禅のコトバと一般意味論……………	神川	正彦
比較美学……………	山本	正男

No. 4 (1968. 3)

比較思想論序説—作者と読者—……………	神川	正彦
ロマン主義哲学者、シュライエルマッヘルのスピノチスムについて……………	工藤	喜作
二十世紀初期イギリス詩論の展開……………	相原	幸一

No. 5 (1971. 6)

世界史における時代区分の諸問題 (I) —比較歴史学の前提—……………	神川	正彦
世俗化の二つのタイプ—ルネサンスと伝播—……………	山本	新
出雲朝廷の軌跡……………	佐野	正巳
ゲーテの“Studie nach Spinoza”……………	工藤	喜作
ロシア外務省外交文書集とボクロフスキー		
—独語版と邦語版をめぐる考察—……………	三宅	正樹

No. 6 (1972. 6)

メッケルにおける 19 世紀ドイツと明治前期日本との接触		
—ケルストのメッケル研究を手がかりとした考察—……………	三宅	正樹
世界史における時代区分の諸問題 (II) —比較歴史学の前提—……………	神川	正彦
ドイツ観念論におけるスピノザ……………	工藤	喜作
本居学の地方浸透……………	佐野	正巳
周辺文明としての日本文明とロシヤ文明……………	山本	新

No. 7 (1973. 6)

世界史における時代区分の諸問題 (III) —比較歴史学の前提—……………	神川	正彦
レッシングのスピノザ主義……………	工藤	喜作

ダム建設と京浜工業地帯—ダム水没村落をめぐって—	山田	操
宣長学の展開—国学と蘭学の習合—	佐野	正巳
トインビーの三つの転機	山本	新

No. 8 (1974. 8)

比較歴史学の一視角—ルネサンス問題によせて—	神川	正彦
汎神論論争について	工藤	喜作
出雲文化にみるマージン・エリア	佐野	正巳
「欧化」の総体的反省—チャダーエフと漱石—	山本	新

No. 9 (1975. 7)

世界史における時代区分の諸問題 (Ⅳ) —比較歴史学の前提—	神川	正彦
国学の成立—古文辞学とその展開—	佐野	正巳
独断論と批判論	工藤	喜作
トインビーにおける中国と日本	山本	新

No. 10 (1976. 6)

ブラジルにおける人種と階級の相関	石井	陽一
ヘーゲルとシャンカラ—西洋的思惟とインド的思惟—	湯田	豊
近世国学界に利用されたる洋学について—泰西地理学を中心として—	佐野	正巳
ヘルダーの『神』について	工藤	喜作
文学の司祭的権威—「孤独と文学」研究序説—	近藤	正栄
ラブンケルのサガー (禁断の馬) —	東	保憲

No. 11 (1977. 6)

体制の転換と教育—ルソの場合—	鈴木	秀勇
スピノザ, ライプニッツ, フィヒテ	工藤	喜作
ヤージニャヴァルキヤ I —アジア的思惟の源流を求めて—	湯田	豊
少年マルクスの人間 = 社会観についての覚え書		
—ギムナジウム時代の三つの作文を中心に—	黒沢	惟昭
明治初期の翻訳漢語—「論理学」(『百科全書』所収) による—	高野	繁男
伝統と文明—その思想史的視角—	後藤	総一郎
誓い合った仲間のサガー (胸算用) —	東	保憲
トインビーの人種関係論	山本	新

No. 12 (1978. 6)

フォイエルバッハの自然—特にスピノザとの関連において—	工藤	喜作
青年マルクス共同態観についての一考察		
—『ヘーゲル国法論批判』『独仏年誌』時代を中心にして—	黒沢	惟昭
初期デューイの思想形成 (1) —その教育関心の成立過程—	森田	尚人
ブラジルにおけるヨーロッパ移民と日本移民—文化変容の比較—	石井	陽一
泉鏡花とレフ・トルストイ—鏡花『日本橋』の成立とトルストイ		
『神父セルギイ』をめぐって—	中本	信幸
ミーマーンサー・スートラ, I, 1, 1—5 に対する		
シャバラスヴァーミンの注釈	湯田	豊

No. 13 (1979. 6)

反ユダヤ的思想形成の一例—ウリエル・ダ・コスタの場合—	工藤 喜作
初期デューイの思想形成 (2) —その教育関心の成立過程—	森田 尚人
マルクスの『学位論文』についての一考察	
—「具体的普遍」を中心に—	黒沢 惟昭
大泉黒石とレフ・トルストイ	
—黒石の生涯と文学に与えたトルストイズムとロシア文学の影響—	中本 信幸
アルタ・サングラハーミーマーンサー体系概要—	湯田 豊

No. 14 (1980. 6)

ウリエル・ダ・コスタとスピノザ	工藤 喜作
比較哲学の課題	湯田 豊
初期デューイの思想形成 (3)	森田 尚人
和韓唱酬における雲藩儒者の活躍—長沢二子 (東海・楽浪) と桃白鹿—	佐野 正巳
大槻文彦・訳「言語篇」の訳語—明治初期の翻訳漢語—	高野 繁男

No. 15 (1981. 6)

ユダヤ哲学とスピノザ	工藤 喜作
タルカ・バーシャー—インドの論理学—	湯田 豊
ラテン・アメリカの文化地理試論	宮井 隆
[資料紹介] 朝鮮通信使と山田復軒 (前編)	佐野 正巳

No. 16 (1982. 11)

コナトゥスをめぐるホップズとライブニッツ	工藤 喜作
ドレフュス事件とシャルル・ペギーのドレフュシズム	
—《ミスティック》と《ポリティック》をめぐって—	倉田 清
ヤスパースとナーガールジュナ	湯田 豊
イギリス革命期におけるクラブメンについて	岡島 千幸

No. 17 (1983. 12)

Launce から Launcelot へ	
—Shakespeare におけるフール誕生と二人の道化役者—	佐久間直子
メキシコ移民とアメリカ合州国	宮井 隆
サーンキヤ・カーリカー (1)	湯田 豊
医学用語における語基と基本漢字—『医語類聚』の訳語—	高野 繁男
【書評】	
神奈川大学人文学研究叢書 (一)	
『悲劇—その諸相と人間観—』	戸張智雄・毛利三彌
網野善彦著『東と西の語る日本の歴史』	和崎 春日

No. 18 (1984. 12)

明治期・医学用語の基本語基と語構成—『医語類聚』の訳語—	高野 繁男
地域生活の拡大・分化と地域集団の再形成—千葉県事例—	横倉 節夫
シャタパタ・ブラーフマナー第1書, 第1アディヤーヤの翻訳—	湯田 豊
笑い—その一面—	鈴木 修一

No. 19 (1985. 12)

- ヘーゲルの〈有機体〉論—ドイツ観念論における自然哲学の一断面—..... 伊坂 青司
 初期マルクスの価値意識—「ライン新聞」第一・第三論文の再審—..... 黒沢 惟昭
 カルデロン・デ・バルカ作『名誉の医者』における“短剣”のイメージ

の一解釈—ローペ・デ・ベガとの対比において—..... 岩根 圀和

Versions of Narrative : A Study of D. H. Lawrence's *Sons and Lovers*

..... Ernest CARMICHAEL

Лебединая Песнь Чехова НобуЮки НАКАМОТО

サーンキヤ・カーリカー (2) 湯田 豊

【書評】

神奈川大学人文学研究叢書 (二)

『日本文化—その自覚のための試論—』 森下直貴・久田邦明

No. 20 (1986. 12)

バンジャマン・コンスタンとフェヌロン 佐藤 夏生

インド哲学と現代 湯田 豊

勝利のマリア—中世のマリア像の革新的思想—神の母, 庶民の母として

..... 石井美樹子

【翻訳】

コロンブス第1回航海『航海日誌』(I) 青木 康征

【書評】

神奈川大学人文学研究叢書 (三)

『続日本文化—伝統と近代化の再検討—』 久田 邦明

No. 21 (1988. 3)

Love for the Invisible Being—Meanings of the Appearance of Mak, a Farcical

Being in the Sacred play—

..... Tsuyoshi HASHIMOTO

梅原 猛『日本文化論』を読む 湯田 豊

【翻訳】

コロンブス第1回航海『航海日誌』(II) 青木 康征

ラテンアメリカ地誌学のアンソロジー 宮井 隆

【書評】

神奈川大学人文学研究叢書 (四)

『民族と国家—国際関係の視点から—』 佐久間 正

No. 22 (1989. 3)

神観と思想形成—ソクラテスとエピクロスをめぐって— 岡野 哲士

目連救母芸能初探 吉川 良和

Chaucer's First Use of Romance Words and Romance-like Words

..... Kayoko KOIWA

『西洋哲学史』—ある日本人の仕事場からのレポート— 湯田 豊

【翻訳】

コロンブス第1回航海『航海日誌』(III) 青木 康征

弘報委員に関するヒヤリング・ノート 吉原 直樹

【書評】

神奈川大学人文学研究叢書（五）

『「近代」の再検討—ポスト・モダンの視点から—』

上条雅子著「日本社会の近代化に関する分析—国際化問題の視点から—」

松島 鈞

黒沢惟昭著「ヘゲモニーと教育—アントニオ・グラムシの

教育研究・試論—」……………井上 正志

鈴木陽一他編「中国の近代化と民族問題」……………長谷川 清

著者への交信：……………柴田 隆行

No. 23 (1990. 3)

言文一致理論の展開—明治期における日本語の「近代化」運動—……………高野 繁男

『白蛇伝』の解説—都市と小説—……………鈴木 陽一

Tat tvam asi……………湯田 豊

【翻訳】

コロンブス第1回航海『航海日誌』（IV）……………青木 康征

【書評】

神奈川大学人文学研究叢書（六）

『いま・日本と中国を考える 一日中比較文化論—』……………大塚 秀高

No. 24 (1991. 3)

セルバンテス：『ヌマンシア』の韻律について……………岩根 圀和

ニーチェの『偶像のたそがれ』を読む（1）……………湯田 豊

Japanese Concepts and E. G. Seidensticker's English Translations ……Kayoko KOIWA

『哲学字彙』の語基と訳語法—その1・語基表—……………高野 繁男

女性パート・タイマーの就労ニーズ—「ニーズの一致」説の再考—……………河上婦志子

No. 25 (1992. 3)

What is the literal meaning of a sentence?……………Reiko ITANI

カルデロン劇に見られるドン・キホーテ像……………岩根 圀和

『ブラフマ・スートラ』（第1章1~4）に対するシャンカラの注釈

—サンスクリット原典からの翻訳—……………湯田 豊

『操觚字要』の書誌考証……………王 宝平

反転する言語と言語タブー—荒井由実『天気雨』の文化記号論的分析—……………小馬 徹

RÉCEPTION DE CHARLES PÉGUY AU JAPON……………Kiyoshi KURATA

【書評】

神奈川大学人文学研究叢書（七）『民族と国家の諸問題』……………文 京沫

神奈川大学人文学研究叢書（八）『ロマン主義の諸相』……………岩崎豊太郎

No. 26 (1993. 3)

Technological Improvements in Sociolinguistics……………Reiko ITANI

アメリカ植民地期のフィリピン通貨制度

—金為替本位制のドル為替本位制への変質過程—……………永野 善子

イスラームの教義……………湯田 豊

シャルル・ペギーの死—「永遠性」のための「現世性」の闘い—……………倉田 清

No. 27 (1994. 3)

- フロイト『文明とその不満』を読む…………… 湯田 豊
 中年期女性のフェミニズム…………… 河上婦志子
 Irony and Metaphor : a Relevance-based approach…………… Reiko ITANI
 Search for the Best Creative Self : Novels of Willa Cather (1)
 …………… Yoshiko YAMAGUCHI

【書評】

- 神奈川大学人文学研究叢書 (九) 『インディアスの迷宮 1492-1992』…………… 片倉 充造
 神奈川大学人文学研究叢書 (十) 『聖と俗のドラマ』…………… 村松仙太郎

No. 28 (1995. 3)

- So Foul and Fair a Day—マクベスの運命の日—…………… 小馬 徹
 ラスキンとブルクハルトのルネサンス観の類似性…………… 鳥越 輝昭
 Search for the Best Creative Self : Novels of Willa Cather (2)
 …………… Yoshiko YAMAGUCHI
 ヘーゲル『精神現象学』の序文を読む…………… 湯田 豊
 シャルル・ペギーの文体—創作と反復の手法について—…………… 倉田 清
 ことばが成り立つとき…………… 古岩井嘉蓉子

No. 29 (1996. 3)

- 中年期女性の「もう一つの人生」—自由記述回答分析から—…………… 河上婦志子
 Search for the Best Creative Self : Novels of Willa Cather (3)
 …………… Yoshiko YAMAGUCHI
 冠詞使用の情報処理モデル…………… 水野 光晴
 ヘーゲルとインド哲学
 —『哲学史に関する講義』序論, 東洋哲学について—…………… 湯田 豊
 目的格名詞句の主題化…………… 浅山 佳郎
 エブリマンの往生—道徳劇主人公の求道と救済—…………… 奥田 宏子

No. 30 (1997. 3)

- 『ソフィーの世界』を巡って—サタンと哲学者の対話—…………… 湯田 豊
 「オムスビの力」と象徴—象徴的日本民族論のために…………… 小馬 徹
 British Attitudes towards the Middle-East, 1945-1947…………… E. M. Carmichael
 ロシア語の完了体は「複数状況」を表すのか…………… 堤 正典
 外国語教育の基本理念…………… 水野 光晴

【書評】

- 神奈川大学人文学研究叢書 (十二) 『ヨーロッパの都市と思想』…………… 的場 昭弘

No. 31 (1998. 3)

- フェリクス・ジエム—「ヴェネツィアの画家」だったフランス人…………… 鳥越 輝昭
 元祖アメリカン・コンフィデンス・マン…………… 山口ヨシ子
 フィリピン・西ネグロス州砂糖キビ作地帯の労働力移動と住民の生存戦略
 —ラ・カステリャーナ町ヒロング農園の事例—…………… 永野 善子
 英語教材編成の観点と授業展開の指針…………… 水野 光晴

【書評】

神奈川大学人文学研究叢書（十三）『国家とエスニシティ』…………… 清水 嘉治

No. 32 (1999. 3)

オールダス・ハックスリーの『パーリオ考』…………… 奥田 宏子

夏目金之助から夏目漱石へ：ロンドン留学の意味…………… 武内 道子

イーディス・ウォートンの異端者たち

—『歓楽の家』『無垢の時代』『夏』を中心に—…………… 山口ヨシ子

America Unarmed : Breaches in Japanese Seclusion, 1791-1845 …… William MCOMIE

日本語動詞の多義体系（1）…………… 国広 哲弥

【書評】

神奈川大学人文学研究叢書（十四）

『芸能と祭祀』…………… 藤井 健夫

No. 33 (2000. 3)

工業地域形成と産業集積についての二・三の問題

—新経済地理学とウエーバー集積理論—…………… 伊藤 喜栄

自由の大地を求めて—南オーストラリアに於けるドイツ移民—…………… 中村 浩平

近代化からの「避難所」としてのヴェネツィア

—「前近代」都市が「過去主義者」たちに意味したもの…………… 鳥越 輝昭

韓国の日本思想受容の問題点…………… 尹 健次

日本語動詞の多義体系（4）…………… 国広 哲弥

【書評】

神奈川大学人文学研究叢書（十五）『笑いのコスモロジー』…………… 磯谷 孝

No. 34 (2001. 3)

ヴェネツィア建築と文人たち…………… 鳥越 輝昭

スピーチ・プライマシー批判…………… 水野 光晴

『明六雑誌』の語彙構造—2字漢語を中心に（その1）— …… 高野 繁男

ガウダパーダのカーリカー—新しい翻訳—…………… 湯田 豊

【書評】

神奈川大学人文学研究叢書（十六）『ロマン主義のヨーロッパ』…………… 鈴木 紘治

No. 35 (2002. 3)

詩人レニエとヴェネツィア…………… 鳥越 輝昭

海を渡るゾルブの人々—南オーストラリアにおける

ドイツ少数民族「ゾルブ」—…………… 中村 浩平

女性たちのNPO活動—カナダの女性たちの教育活動NPOの実践— …… 河上 婦志子

『明六雑誌』の語彙構造—2字漢語を中心に（その2）— …… 高野 繁男

日英文化比較：語彙スキーマのネットワーク…………… 水野 光晴

【書評】

神奈川大学人文学研究叢書（十七）

『ジェンダー・ポリティクスのゆくえ』…………… 小玉 亮子

No. 36 (2003. 3)

英国における標準英語とその変化…………… 上條 雅子
戦前期朝鮮・台湾における邦人酒造業の展開…………… 八久保厚志

【書評】

神奈川大学人文学研究叢書（十八）

『日中文化論集—多様な角度からのアプローチ』…………… 望月 眞澄

No. 37 (2004. 3)

上海歴史研究所蔵宗方小太郎資料について…………… 大里 浩秋

『申報』における楽善堂の広告宣伝活動（1880～1893年）…………… 陳 祖恩

『新青年』時代の周作人と日本—「貞操論」を中心に—…………… 劉 軍

平和の鳩 ヴェルダ マーヨ

—反戦に生涯を捧げたエスペ란チスト長谷川テル—…………… 中村 浩平

御宿町における有料老人ホーム入居者の属性と前住地…………… 平井 誠

わが国における伝統的酒造業の革新と持続的成長…………… 八久保厚志

『哲学字彙』の和製漢語—その語基の生成法・造語法—…………… 高野 繁男

【書評】

神奈川大学人文学研究叢書（十九）

『歴史と文学の境界—〈金庸〉の武侠小説をめぐって—』…………… 笹倉 一広

No. 38 (2005. 3)

『日華学報』目次…………… 大里 浩秋

米国人宣教師と日中戦争、上海の敵国人集団生活所

—オレゴン州立大学所蔵の宣教師関連スペシャル・コレクション—…………… 孫 安石

国家の統合における言語の役割…………… 岩本 典子

汉语方言词问题研究…………… 張 旭

上海における横浜企業の展開—中堅・中小企業を中心に—…………… 横倉 節夫

【書評】

神奈川大学人文学研究叢書（二十）

『「明六雑誌」とその周辺—西洋文化の受容・思想と言語—』…………… 加藤 僖重

No. 39 (2006. 3)

カトリック・ゾルブー同化に対するゾルブ民族の最後の砦…………… 中村 浩平

戦前中国人留学生の「実習」と「見学」について…………… 孫 安石

維新政府と汪兆銘政権の留学生政策 制度面を中心に…………… 三好 章

同仁会と『同仁』…………… 大里 浩秋

【書評】

楊艦著『近代中国における物理学者集団の形成』…………… 川島 真

神奈川大学人文学研究叢書（二十一）

『新しい文化の形—言語・思想・くらし』…………… 村田 年

No. 40 (2007. 3)

認知語彙論への試み—「やばい」をめぐって—…………… 武内 道子

道徳的認識および推論の様式と物語

—ケアの倫理と道徳的行為への思考（2）—…………… 坪井 雅史

酒造業における経営近代化の嚆矢とその帰結

- 会津若松産地における会津酒造株式会社の事情—…………… 八久保厚志
 上海の道路命名年表—社会言語学的命名論の基礎研究—…………… 彭 国躍
 宗方小太郎日記, 明治 22~25 年 …………… 大里 浩秋

No. 41 (2008. 3)

- 清酒業の構造変化と産地対応—構造改変期における対応と国際化—…………… 八久保厚志
 ワーキングガールから遺産相続人へ
 —ローラ・ジーン・リビーのロマンスをめぐって—…………… 山口ヨシ子
 宗方小太郎日記, 明治 26~29 年 …………… 大里 浩秋
 戦前の上海と日本人の印刷業—鹿内勲氏の自分史が語るもの—…………… 孫 安石
 沖縄の色…………… 三星 宗雄

【書評】

神奈川大学人文学研究叢書 (二十三)

- 『世界から見た日本文化—多文化共生社会の構築のために—』…………… 駒走 昭二

No. 42 (2009. 3)

- 歌語と独語と—『荒城の月』の詩的色彩—…………… 新山 春道
 公衆トイレのアンソロポロジー…………… 三星 宗雄
 上海人大学生の言語評価…………… 宮本 大輔
 『広八日記』と日本暦・西暦月日対照表 …………… 鈴木 修一

【書評】

神奈川大学人文学研究叢書 (二十四)

- 『在日外国人と日本社会のグローバル化—神奈川県横浜市を中心に』…………… 小馬 徹

No. 43 (2010. 3)

- 一般市民から見た沖縄の色
 —那覇市および近郊の市民からの聞き取り調査—…………… 三星 宗雄
 韓国人, 日本人, および日本在住韓国人を対象とした
 色彩選好と思考スタイルの関連性…………… 車 貞玖
 色見本を用いた色言葉が指す色範囲の測定についての研究…………… 畑田 明信
 認知語用論と敬意表現—「どうぞ」発話と「どうか」発話の場合—…………… 武内 道子
 外国語学習者の言語データをどのように記述するのか…バロン ロペス, アルトゥーロ
 対外汉语教学中的反问句調査研究…………… 史 芬茹
 GHQ 占領期における在日朝鮮人雑誌の書誌的研究 …………… 小林 聡明

【書評】

神奈川大学人文学研究叢書 (二十五)

- 『表象としての日本—移動と越境の文化学』…………… 島村 輝

No. 44 (2010. 12)

「マリーノ・ファリエーロ」と「ヴェネツィアの一夜」のなかの

- ヴェネツィア貴族政不信…………… 鳥越 輝昭
 宗方小太郎日記, 明治 30~31 年 …………… 大里 浩秋
 遠感覚・近感覚再考…………… 三星 宗雄
 画像の色情報をを用いたデジタル画像の評価値と画像検索への応用…………… 畑田 明信

【書評】

神奈川大学人文学研究叢書（二十六）

『ジェンダー・ポリティクスを読む—表象と実践のあいだ』…………… 中園 成生

No. 45 (2011. 3)

ユニバーサルデザインはどこにある…………… 三星 宗雄

アメリカ人が見た幕末日本 1842-1846…………… マコウミ・ウィリアム

スペイン内戦とメキシコ…………… 小倉 英敬

奈良女子高等師範学校における「満州国」留学生…………… 周 一川

マレーシア華人新村の形成過程と地方政治

—スレンバン近郊の2新村における現地調査から—…………… 坪井祐司・村井寛志

【書評】

神奈川大学人文学研究叢書（二十七）

『中国・朝鮮における租界の歴史と建築遺産』…………… 内田 青蔵

No. 46 (2011. 10)

1920年代ペルー・クスコ地方における共産主義運動の形成…………… 小倉 英敬

『ホフマン物語』のなかのヴェネツィア—悪魔と鏡—…………… 鳥越 輝昭

日本における騒色公害の系譜とその解決…………… 三星 宗雄

メスティサへと多文化主義のはざままで

—エクアドルにおける先住民の包摂と排除—…………… 新木 秀和

日常会話にみられるカテゴリー，文化，コンテキスト

—続きの会話の分析を例にして—…………… 細田 由里

加藤玄智の神道論—宗教学の理想と天皇教のあいだで—（1）…………… 前川 理子

マレーシアのゴム農園地域における華人新村の形成と住民生活の編成

—マレーシア・ヌグリスンピラン州マンバウ新村の事例から—

…………… 村井寛志・東條哲郎

宗方小太郎日記，明治32～33年…………… 大里 浩秋

【書評】

神奈川大学人文学研究叢書（二十八）

『世界の色の記号—自然・言語・文化の諸相—』…………… 川端 康弘

No. 47 (2012. 3)

ラテンアメリカ1968年論序説…………… 小倉 英敬

アメリカ色彩事情—デトロイト市周辺における公共の色彩—…………… 三星 宗雄

宗方小太郎日記，明治34～35年…………… 大里 浩秋

加藤玄智の神道論—宗教学の理想と天皇教のあいだで—（2）…………… 前川 理子

No. 48 (2012. 8)

ラテンアメリカ1968年論（1）メキシコの場合…………… 小倉 英敬

学校教育における「特別活動」再考の視点…………… 澤田 敏志

ウィスキーと文化…………… ブッヘンベルゲル・ステファン

宗方小太郎日記，明治36～38年…………… 大里 浩秋

No. 49 (2013. 3)

五道神と武塔神.....	山口 建治
宗方小太郎日記, 明治 39~40 年	大里 浩秋
ラテンアメリカ 1968 年論 (2) ペルーの場合.....	小倉 英敬

【書評】

神奈川大学人文学研究叢書 (二十九)	
『〈悪女〉と〈良女〉の身体表象』	近江 美保

No. 50 (2013. 8)

従軍画家瀬野覚蔵とその戦地記録画—戦前絵葉書による美術史拾遺—.....	彭 国躍
SF ダイムノヴェル—テクノロジー, 冒険, 帝国主義	山口ヨシ子
騒色公害と景観問題—実態と解決案—.....	三星 宗雄
「満州国」留学生予備校 第 3 期卒業生をめぐって	周一川・賈 曦
特性推論の統合モデルと修正モデルの比較: 認知的負荷による	

対応バイアスの減少.....	高 史明・雨宮 有里
ラテンアメリカ 1968 年論 (3) キューバの場合.....	小倉 英敬
宗方小太郎日記, 明治 41~42 年	大里 浩秋

【書評】

神奈川大学人文学研究叢書 (三十一)	
『植民地近代性の国際比較—アジア・アフリカ・ラテンアメリカの 歴史経験』	鈴木 伸隆